





特 18  
 1833  
 79

繪本古図記七篇卷之七

目録

清正天皇石山城郭郭越語

白土露城門を同じ道出る國

郭後父子戦記の國

越前國と佐々木氏の國

日本勢図南原語

日本圖

波多杜尾人種洲と名鏡と減る國



南原落城話

日圖

楊元より李榮春の朝に劉之驥の擒め

金谷義の水田に隠れしと勅る國

全州落城話 日圖

馬多永政全義被殺解生

永政川と後して明兵破る國

永政川と後して明兵破る國

繪本古圖記七篇卷之七

清心英石山城斬郭人後

義勇道き者より郭下の隙を窺ふ道人と後よけ山城は要害と

擁る日本勢押来るが命うきり又防ぎ戦んとむるを引て得るけ

より日本の先鋒加藤貞計既清心勢を率て英石山城下に押

寄せ只一拂に潰崩せやと城の三方を鵜麻のどくを囲み雨より

響くを銃と飛し雲のどく火箭を放ち叫き喚んで攻めつけ

る城中より益々で覚悟をえりたり少しし強がに防ぎ戦ひつる

城中の樹木は火倉の如く火箭を射付けらるる間と一日は燃えしは城中

に在りける白き煙をみれば武勇の姿をえたる者なり日本勢

に在りける白き煙をみれば武勇の姿をえたる者なり日本勢

に在りける白き煙をみれば武勇の姿をえたる者なり日本勢

に在りける白き煙をみれば武勇の姿をえたる者なり日本勢





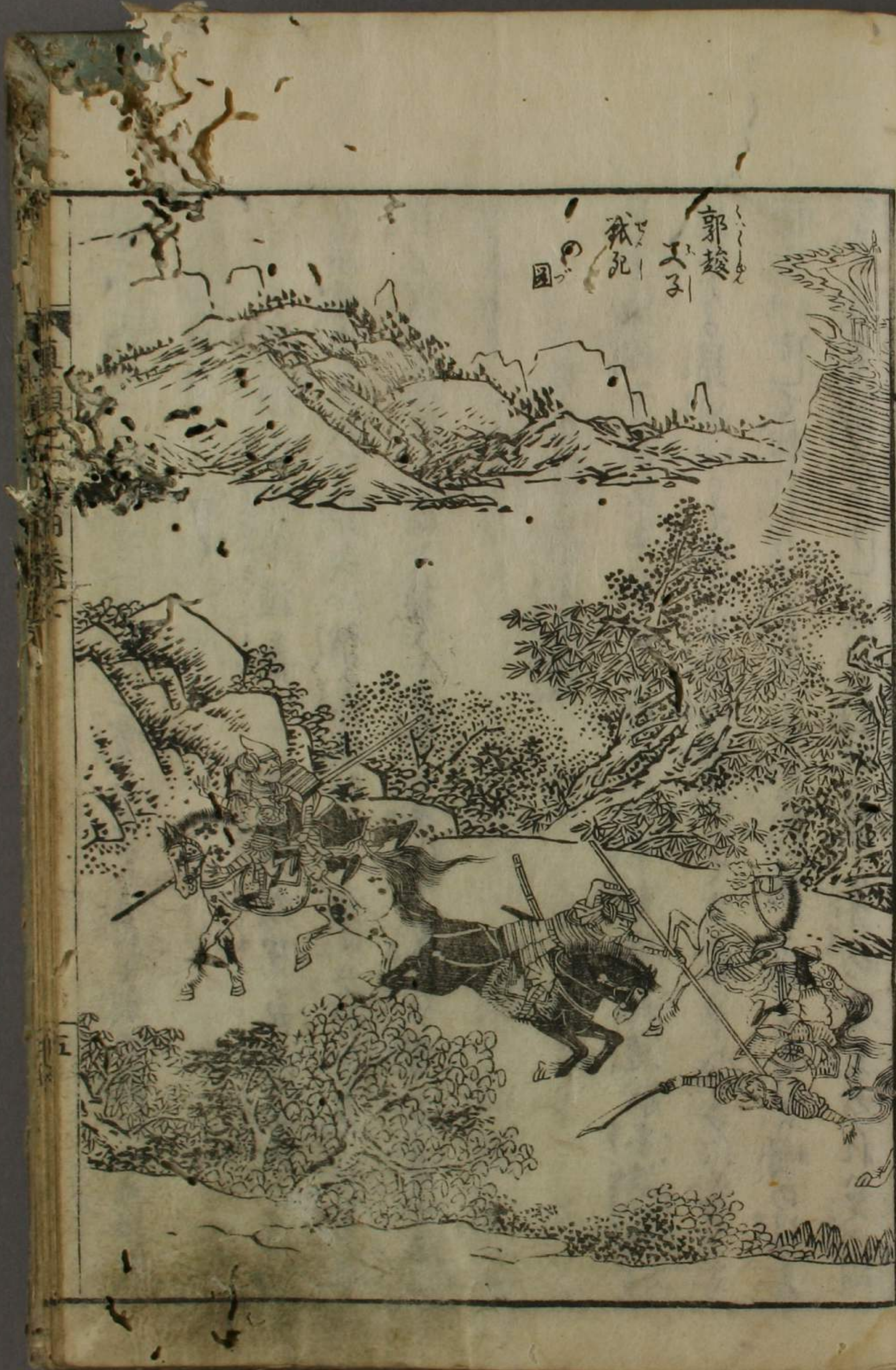


白土露  
松丁と聞き  
遊物之國











真  
顯  
帝  
廟  
志

王

妻と引合ふと一刀に貫き自ら首を刎て死すけり

體 羽山外生猶喜

巡遠堀中死示衆

清正城中又入て郭氏名女捕宗道名人かへきたよき配と義と屍を土  
中又埋とまじの樹を極と去或又合じて集りし軍を率てとく  
すれろ

日本勢攻南原城

日本海陸二軍の大軍數月を経て八月下旬慶尚道ハルル尚道ハルルの角忠清道チクニョクタイの角  
の境より昂州コウシュを遙く出合面勢合して十余万人一軍にありそ  
南原ナムワン北キョクにして押ひつるを去るふ南原ナムワン名城を守り大抵の明の楊元  
人々フイ名獵男リョウナン人兩人ありしかけ地朝鮮國中第一の要害ありける園

まてい時ふはじとく墨とるに「聖と源は」堀原又其小の鉄炮教  
 百挺を押並（城門の外に）柵延辰本間と引まことぬ堅固の勢  
 城ありとるのより比外は援の勢なくては戦ひの始終強うは  
 て雲出幸地又権標人李元翼人の両方と最き金州地又は陳愚哀  
 名は教万騎の兵と飲せめて是と守らせ南原地の急なりは「守」く  
 来り敵より見る苦成定し日本勢来るは一戦は退崩さんと行  
 壘と吾で待りけり強ふ小南山修砦の戦ひは元均名は長久は擒  
 とあり黄石山の城陥り信正がに郭援人又子討配（日本勢  
 海陸より進）密道に入るは孔入せると人民死に交り小雲出幸地を守り  
 ころ権標人李元翼名は戦いより先は必死に城と棄てたは日平  
 勢元来沈惟敬名は内通して明人の名は死悉く知りてこれを捕



趙家道  
妻  
節  
國



趙家道  
妻  
節  
國

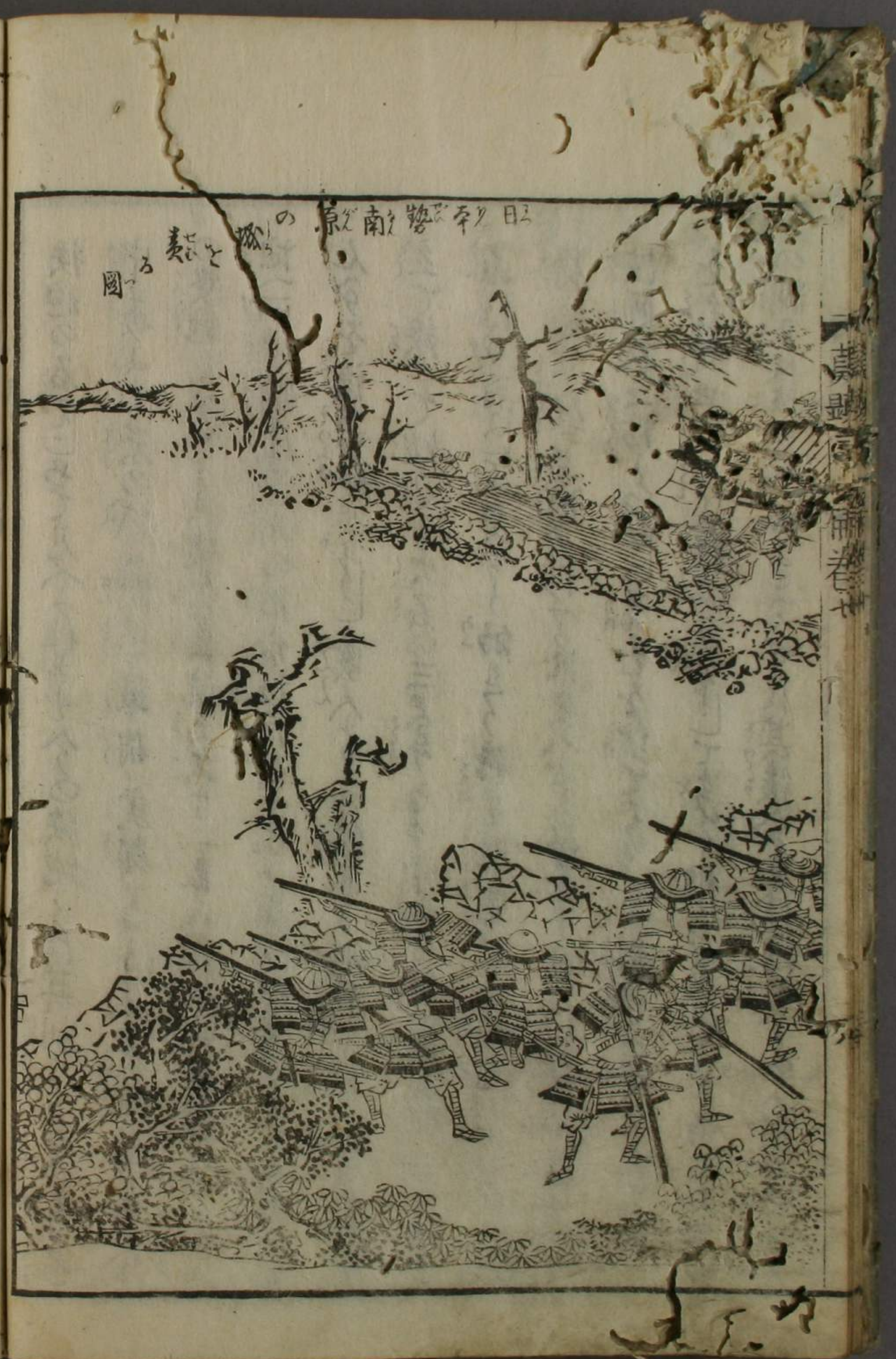


名の陳思哀人を押へんとて大なる  
 軍を率ゐる小志を率國者廣加を秋兩人を率一  
 万五千人の軍兵と率し全州を包圍せり  
 南原と表漢せり浮回を率毛利秀元加  
 小西其外のお士九千人八月廿三日南原の城下  
 二押寄線波と惟り三度山は郷着き谷小善  
 大地を震ふなり又大筒小筒の多銃と  
 おうけ素とひしり後又城中より出て  
 虎狼の如きなり押寄に矢と射し銃炮と  
 殺らんとし冷度と防ぎけし城元来要害堅固  
 の造れるに左右を素威にり人兵兵軍  
 日と素しぬ

先年古岡兵と朝鮮へ入移し時までの彼國より大明に銃炮  
 といふの如し君日本には龜山院文永の  
 此書古我國と試し

銃炮の名にじめて人々れり今の銃炮は其制より  
 中興より宋の代は旋風。單指。虎蹲。なり  
 今火炮のあり今火の銃炮より後宋良院  
 天文十二年八月大隅國種ヶ島といふ  
 地西岸置置巴州の波介杜屋介といふ國の  
 船乗り日本と交易せんとて其船を  
 破るに火の三度なり小善を率て  
 船の彈丸を以て飛ひて百はて百なり  
 的なり時着たり若し火器二箇と  
 得し其態と試るなり此と人々れり  
 此に九州根束の法師松之坊といふ  
 若しをばてり後傳は来りてけり  
 此の時著し又報治を令して  
 人々れり此に九州根束の法師松之坊  
 といふは若し人々れり其後令を  
 諸藩定より報治の工













江戶  
八  
人  
制  
師  
の  
家  
と  
い  
ふ  
所  
に  
あ  
る  
図

真  
景  
江  
戸  
八  
人  
制  
師  
の  
家  
と  
い  
ふ  
所  
に  
あ  
る  
図







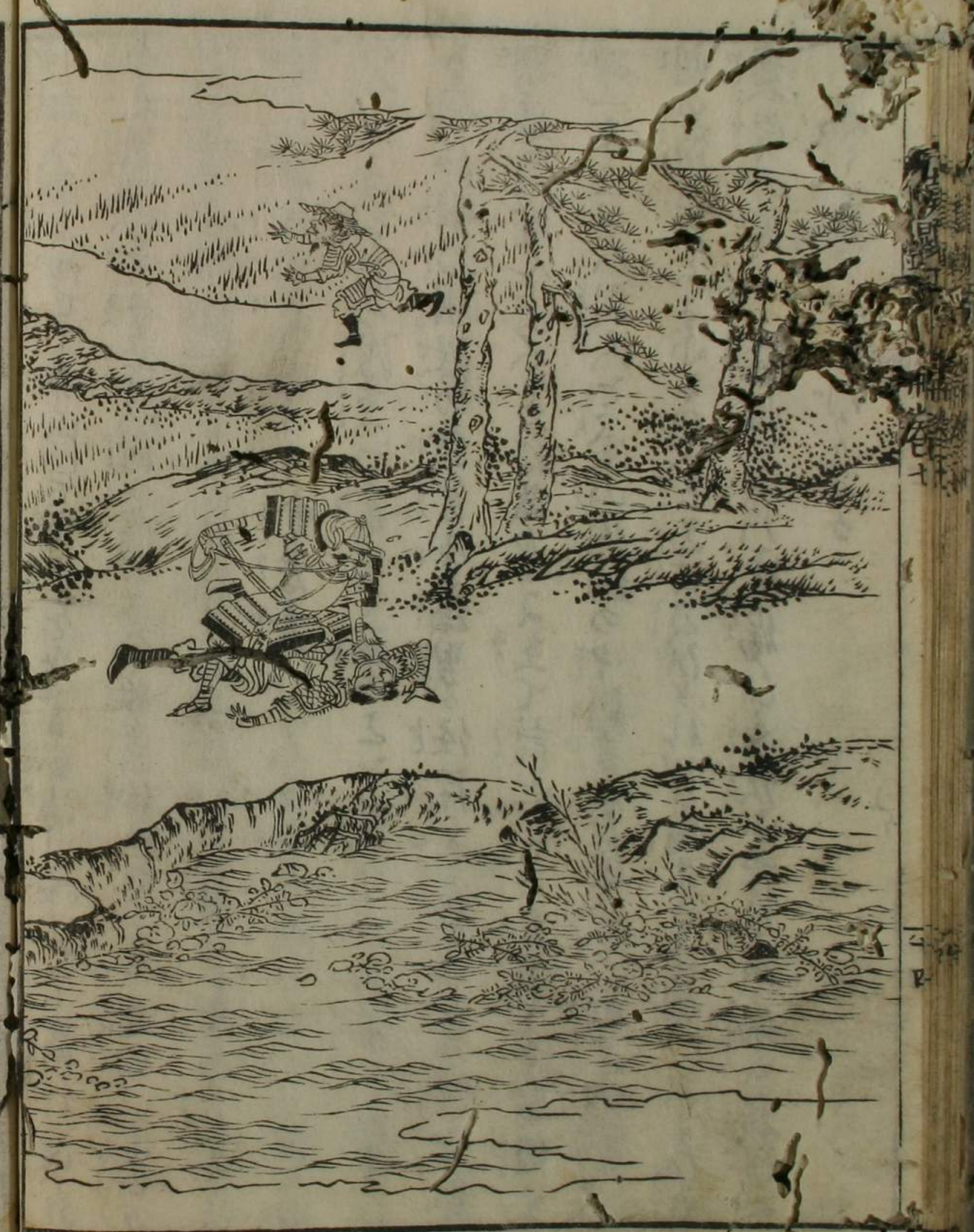




毎朝いせ城に多く押寄ると吾や我れくし隙の也（段）  
 是より中へ余の増と増し殺し多く積る積る今い隙に  
 隙を日本に諸なる軍士より知して彼の隙のよに打ち討つ  
 の松明一月は火と燃じ又百余の鉄砲を城中へ打ちあはせしや  
 隙と城を切て入るぞ城中の兵卒動揺するも大方に准るを  
 人防ぎ我れんとする者多く我れ先門を開き逃れんと日本の別兵  
 とも力を出し向ふかば老幼男女のきりひりくつる隙に切殺に  
 殺すその屍は横倒て丘のどく奥へあがりてはあはれくつる隙に  
 方の門よりい隙を奪ひ是より朝也勝領が家老を生駒長曾我部  
 小西加茂を逃し我れ後追ひ切つる小西明が揚元を今い隙に離  
 らせし隙に夜と隙で隙にぬり隙する隙を隙に隙に隙に隙に隙に

下郎の隙に隙して手して城戸を逃し山海州に逃して隙に隙に  
 令老義名 栗原芳人 劉之鶴 三人 難宗 紹と東より逃れり栗原  
 名も長曾我部元親が隙に討殺され之隙に永政の家来本林を兵  
 捕がけ捕るぞあつる令老義名一人を隙に母のきり源を面  
 の中へあはせ洗め隙と集めて面のとと殺し幸き命と賜け  
 る其外明の朝鮮の武官栗原男。任強。令敬老。栗原春元。鄭  
 期遠。を隙に隙する大なる隙中へ立て討死し新元首三万余級を  
 捕一万余人則人と令山浦の中納言栗原秋（港）南原（人）我れ  
 別の隙に隙する隙に隙する隙に隙する隙に隙する隙に隙する隙に  
 栗原の馬を隙に隙する隙に隙する隙に隙する隙に隙する隙に隙する隙に













全州

城

全

十











山崎  
森田  
の  
國









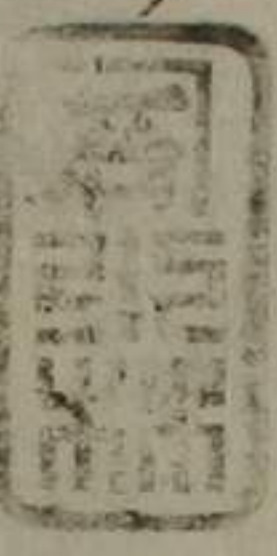








倭英人戦ひ軍を破る。之を以て入札とて戦ひしゆびと。とも云  
ん方こそある。之を以て入札とて戦ひしゆびと。とも云  
と年て押来る。其多と入札て突まふ。明軍今の叶ふまじと  
とんづ。あつた。討る。若麻と死する。幸ふ。山岡  
の切不引入。毛利軍多の両勢。崩れて退却。栗山佐  
後守。後及。兵勝。大。小。制。小。勢。を。大。軍。と。討。る。悉く。法。あり  
款の切不。付。幕。の。兵。家の。意。あり。討。小。目。と。西。へ。傾。き。ぬ。軍。と。ま  
ど。めて。討。る。と。と。両。人。の。勇。士。殿。て。令。義。館。と。討。る。今  
日の合戦。討。る。有。六。百。二十。余。級。捕。三。十。余。人。ま。と。り。勇。く。後  
る。名。あり。



繪本左図記七篇卷之七終



